

末梢神経の再建 2021

多田 薫

Kaoru TADA

金沢大学医学部附属病院
整形外科

「神経」という言葉は、杉田玄白先生や前野良沢先生らが翻訳された『解体新書』の中で、精神を表す「神気」と、通り道を表す「経脈」の2つの言葉からつくられました。したがって、神経には「精神の通り道」という意味が込められていることになります。整形外科医が日常診療でたびたび遭遇する末梢神経の損傷を「精神の通り道」の損傷と考えると、適切な再建が必要となることがより実感できるように思います。

末梢神経の再建に関しては、これまでに数多くの研究が行われてきました。その結果、近年は日本国内で人工神経が広く臨床応用されるようになり、新しい人工神経や神経保護薬の治験も始まっています。また、海外では同種処理神経が臨床応用されるようになりました。末梢神経の再建は、研究結果が着実に臨床応用され進歩を続けている領域だと言えます。

特集「末梢神経の再建 2021」では、この分野で現在ご活躍されている先生方にご寄稿をいただきました。総論として、田中啓之先生には末梢神経の再建に関する基本的手技や治療指針の立て方について述べていただきました。神経欠損部への介入に関して、大村威夫先生には自家神経移植術の詳細な手技とその成績について、村井惇朗先生には自家神経移植術の成績を向上させる研究について述べていただきました。また、岡本秀貴先生には人工神経の歴史とその適応や成績について、上村卓也先生にはiPS細胞を付加した人工神経の研究結果について、赤羽美香先生・伊藤聡一郎先生には同種処理神経の歴史とその成績について述べていただきました。神経欠損部以外への介入に関して、池口良輔先生には神経移行術の基本的手技とその適応や成績について、栗本秀先生には神経筋接合部の詳細な構造や現在行われている研究について述べていただきました。この場をお借りして、ご寄稿をいただいた先生方に心より感謝申し上げます。

本特集をお読みいただくことで、末梢神経の損傷に遭遇した際に治療指針が立てられるようになるとともに、末梢神経の再建の現状と展望が把握できると思います。私たちが好きな末梢神経を読者の先生方も好きになってくれることを期待しています。